

総合的な学習の時間 全体計画

＜学校の教育目標＞

たくましく 生きる 二葉っ子

＜重点目標＞

ふるさと（新発田）が好きで、夢や希望に向かって学び続ける子

＜本校において定める目標＞

多様な角度から俯瞰して物事を捉えたり各教科等における見方・考え方を働かせたりしながら、地域・防災・人権等に係る人・もの・ことの中から見出した課題の解決を目指す一連の学習を行うことを通して、多様な情報をもとに最適な解決策を粘り強く考え、自分の行動や将来の生き方、学ぶことの意味などを考え続けていくために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域・防災・人権等に係る人・もの・ことの中から見出した課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、地域のよさや特徴、命の守り方、自他の存在を尊重することの大切さを理解する。
- (2) 地域・防災・人権等に係る人・もの・ことの実態や、そこから見出した「思い・願い」に基づき課題を設定する力、その解決のために必要な情報を集め、考えるための技法を活用しながら分析する力、そして相手や目的に合わせて分析したことをまとめたり表現したりする力を身に付ける。
- (3) 地域・防災・人権等に係る人・もの・ことの中から見出した課題の解決に主体的・協働的に取り組むとともに、ふるさにと貢献し、自他を尊重しながら自らの将来を切り拓こうとする態度を育てる。

＜地域について＞

- ・城下町として栄え、国指定重要文化財 表門、旧二の丸隅櫓を中心に、歴史的建造物や水路、祭礼行事など、歴史と伝統が息づいている。
- ・市の中心街の北部には、加治川が流れており、昔から大きな洪水をくり返してきたことから、地域の防災への意識は高い。
- ・歴史や文化、自然、産業など、住まわりのよさや課題などへの理解を深める学習を通じて、子どもたちに郷土愛を育もうと「しばたの心継承プロジェクト」が推進されている。
- ・「食の循環によるまちづくり」の考えに基づき、『食のサイクル「育てる(栽培)」、「作る(料理)」、「食べる」、「返す(リサイクル)」、「育てる」』の知識と実践力を身に付け、自立して生きていくために必要な力や豊かな心を育むことをねらいとした「食とみどりの新発田っ子プラン」が推進されている。
- ・人権等擁護都市宣言を行い、さらに「新発田市差別のない人権等が尊重されるまちづくり条例」を制定し、差別のない明るいまちづくりの実現を目指して様々な人権等課題の解決に取り組んでいる。

＜主な探求課題＞

【 内 容 】

＜育てたい資質・能力＞

探求的に関わる人・もの・こと		探求的な活動	◆知識・技能
三年	農業生産者 農畜産物	・地域で生産される農畜産物やその生産者に関わる中で、それらを取り巻く課題に気づき、その解決を目指して探求する。	・各学年の単元計画に定める知識・技能 ・探求的に関わる人々の相互の関わりについて気付くこと ・探求的な学びに必要な情報収集の方法の理解とその技能
四年	身体障がい者 障がい者を支える環境 災害時や避難時に 必要な備えや対策	・障がい者との共生や社会環境が生み出している障がいについて理解し、自分たちの差別観に気付く。 ・障がい者への差別の実態から課題を見出し、その解決に向かって探求する。 ・地域の防災について調べることを通して、災害への備えの大切さを理解する。	◆思考力・判断力・表現力等 ・関わる人、もの、ことの実態やそこから生まれた思いや願いに基づき課題を設定する力 ・方法や手順等を考え、課題の解決を目指した活動を計画する力 ・課題に応じ、方法を選んで情報を収集する力 ・情報を取捨選択したり、目的に合わせて並べたり表現し直したりする力 ・比較、分類、序列化、関連づけ、理由づけ、評価等を行い、課題の解決に向けて考える力 ・目的や相手に応じて、適切な方法を選んでまとめたり表現したりする力
五年	新発田市の まちづくりと それに携わる人々	・新発田市の特色やまちづくりの様子について理解し、それらのよさに気付く。 ・新発田市と他地域の比較からこの地域のまちづくりの課題を見出し、よりよいまちづくりを目指して探求する。	◆学びに向かう力・人間性等 ・自分の意思をもって課題解決に向けた活動しようとする態度 ・自己の変容を捉えて達成感や自信をもち、その後の自分の生き方や将来につなげて考えようとする態度 ・差別を否定し、気付いた自分の中の差別の心を見直し、差別のない社会づくりに貢献しようとする態度 ・仲間や地域の人々と協働して課題を解決しようとする態度 ・地域の活動に参画し、積極的に貢献しようとする態度
六年	自分自身と社会を 支える仕事 働いている大人	・身近な大人の働く様子や、職業人がもつ仕事観に触れることを通して「働くこと」「働くために必要な能力や姿勢」などについて理解する。 ・実際に仕事を体験することを通して、働くために大切なことや仕事のやりがいなどについて理解する。 ・自分のこれからについて課題を見出し、その解決を目指して探求し、自分の生き方を考える。	

指導方法

- ・関わる人・もの・ことの課題およびその課題に携わる人々や機関の取組、願いの調査を重視する。
- ・課題となる対象について、時間軸、空間軸、認識等の視点から対比し、思い・願いをもたせて学習課題（単元の中心となる課題）を設定する。
- ・児童の実態に合う質・量の情報を複数収集させる。必要に応じて、意図的に情報を提供することも考える。
- ・体験等で感覚的に情報を収集した場合には、言語化によりアウトプットを行い、可視化して蓄積する。
- ・思考ツールを利用して、考えるため技法を働かせた整理・分析を行わせる。
- ・協働的な分析と個人による熟考を組み合わせる。

学習の評価

- ・協働的な学習の成果物と個人の熟考によるまとめを適切に組み合わせる個人の評価を行う。
- ・評価に必要な資料をノート、ポートフォリオにより蓄積する。
- ・学期ごとに学習指導、指導計画の評価を行い、単元計画の修正を行う。
- ・学習指導のために収集した情報や教材等をデジタルデータで保存・共有化する。

指導体制

- ・指導の基本は、学級単位とするが、学習のねらいや内容に応じて学年合同での指導を行う。
- ・地域の人材を積極的に活用する。
- ・地域の人材活用にあたっては、学習のねらいや授業の展開等について適切な打合せを行う。
- ・地域人材の活用の履歴を指導計画に残し、次年度以降の参考となるようにする。

